

令和元年度 第2回 I L Cアクションプラン策定委員会 議事録

1 開催の日時及び場所

(1) 日時 令和元年12月18日(水) 午後1時55分から午後4時

(2) 場所 大船渡市役所 議員控室

2 委員の現在数 22人

3 出席者

(1) 委員16人(うち代理出席1人)

新沼邦夫 尾上悟 紀室裕哉 鈴木昭司 志田繕隆 山蔭康明(代理:菊池弘充)
相澤友実 臂徹 渡辺徹 佐藤敬生 石橋厚子 金野みゆき 江刺由紀子
今野顕彦 和田憲 長澤敏之

(2) 県職員3人

岩手県 I L C推進局事業推進課 多田宗 岩淵大士 深澤英一郎

(3) 市職員11人

財政課 志田和則 国保年金課 佐々木直央 子ども課 村上亮 商工課 鈴木伸
企業立地港湾課 山本淳一 佐藤直司 観光推進室 金野道程 建設課 新沼巖
住宅公園課 三浦寛基 生涯学習課 新沼裕一 教育研究所 佐藤利江子

(4) 事務局4人

企画政策部 I L C推進室 室長 新沼徹 次長 伊藤喜久雄 主幹 遠藤高雄
係長 鈴木亨

4 議事の経過

午後1時55分、I L C推進室遠藤主幹の進行で定刻より若干早く開会した。

はじめに新沼会長から、「前回の委員会においては、I L Cの最近の動向と本策定委員会の役割について説明いただき、その後 I L Cアクションプランの内容について説明を受け、プランの構成等について協議したところである。本日は、ワークショップ形式により、的を絞って討議することとしているので、多くの意見・アイデア等を発言いただきたい。国内外において、I L C誘致・実現に向けた動きがより活発になっているところである。政府の誘致判断を強力に後押しするためには、一層の機運の盛り上げを図ること、受け入れ準備を適切に整えることなどが必要であり、本アクションプランの策定は、昨年度策定した「I L Cと共生するまちづくりビジョン」と併せ、I L Cに関する大船渡市の重要な計画となる。各委員には、日頃の役職や立場を超えて、忌憚のないご意見をいただくようお願いしたい。」とあいさつがあった。

次に I L C推進室鈴木係長から配布資料及びワークショップの進め方について説明があった。

その後、ワークショップに入った。

ワークショップは、70分の時間で、出席者が4グループに分かれ、「I L Cと共生するまちづくりビジョン」に掲げる5つの将来像のうち、「港湾・物流・道路」分野を除く4つの分野(「産業」、「観光・交流」、「生活・居住・滞在」、「医療・教育・社会」)について、1グループ1分野で「想定される効果・めざす姿・課題」について意見・アイデアを挙げる作業を行った。

「想定される効果」では、挙げられた意見・アイデア等を付せんにて記入し、横軸に「準備期・建

設期」、「運用期・成熟期」の時間軸、縦軸に「～10 km圏（奥州市・一関市等）」、「10～30 km圏（陸前高田市・住田町等）」、「大船渡市（30～50 km）」の距離軸を示した模造紙に貼り、その効果が生じる時期、場所等を整理した。（各委員からの意見・アイデア等については、別添資料参照。）

ワークショップ終了後、各グループが討議内容について発表を行い、委員会内で挙げられた意見等を共有した。

各グループからの発表後、全体を通した質問・意見、他グループへの質問・意見等の時間を設け、各グループのファシリテーターからそれぞれ発言があった。

【観光・交流分野ファシリテーター 臂委員】

- ・委員から出された意見で、外国人だからと言ってそれほど構える必要はないという発言が印象的であった。
- ・来る者を予測して対応することも必要だが、受け入れ側が構えをしっかりとしておくこと、実際に来訪した時に「大丈夫」との気構えを持ち、受容性を持って受け入れることも必要と感じた。

【生活・居住・滞在分野ファシリテーター 石橋委員】

- ・最初に、I L Cが誘致されることで様々な施設が整備されることは、この地に居住する我々にとってもよいことであるということグループ内で再確認した。
- ・受け入れる体制づくりとして、子どもたちに限らず、大人もあいさつ程度には英語を話せるようになることよい。
- ・あいさつ程度の英語力の人でも、タブレット、パソコン等の活用等、コミュニケーションが広がるようなツールの整備が必要。
- ・郷土芸能、食文化、生活環境、風景等、地元のよさについて、自分たちがしっかり認識し、そのよさをアピールすることを意識することが大事。
- ・今後、若い世代の意見も取り入れながら、20年、30年後によいまちになっているとよいと思う。

【医療・教育・社会分野ファシリテーター 江刺委員】

- ・当グループでは、初めに出された意見に対して、次々に意見がプラスされていった。
- ・I L Cをきっかけにこの大船渡市をさらによりよいまちにしたい、これからの子どもたちが住みやすい大船渡市にしていくにはどうしたらよいかという思いが各委員から溢れ出た結果だと思う。
- ・大船渡市がよいところ、住みよい場所となるためには、英語、交流が必要という最も大事なことがグループ内で共有できたと思う。

【産業分野ファシリテーター 今野委員】

- ・沿岸部と内陸部とのI L Cに対する熱量の差が大きいと感じる。
- ・インフラが整備され、交流もしやすくなった時、何もしなければ大船渡市はただの通過点になってしまう。I L Cに対しても何もアクションを起こさなければ、何も効果もないまま終わってしまう。
- ・いかにI L Cを契機に自分たちで動いて関わっていくかが非常に重要と感じた。
- ・沿岸部でのI L Cに対する熱量は拠点となる内陸部と比較するとまだまだ差があるので、どのように意識醸成し、そのために何が必要かということを考えるよい機会となった。

○その他について

（I L C推進室鈴木係長）

本策定委員会について、委員会設置の際に年3回程度の開催としてご案内させていただいているが、ヒアリング等も経て委員の方から議論が足りないのご意見をいただいていることから、今後の日程調整にもよるが、開催回数を増やし、年4回をベースに調整したいと考えている。

なお、次回の委員会については1月下旬を、最終回については、2月～3月の間での開催を調整したいと考えている。日程が決まり次第、あらためてご案内させていただく。

各委員から発言はなく、第2回ILCアクションプラン策定委員会を閉会した。

以上